寄稿

市民が主役の生涯学習まちづくり

～法人名の改称と「まちづくりシンポジウム」のお誘い～

NPO法人安房文化遺産フォーラム　代表　愛沢伸雄

●授業づくりから地域づくりへ

高校の世界史教師であった私は、地域の歴史・文化遺産を見つめ直し、足もとから世界を学ぶ授業づくりを実践してきました。戦争遺跡（以下、戦跡）など地域教材を生かした学習を通して、生徒たちは自分の暮らすまちへの誇りなどを育んだのではないかと思っています。

なかでも安房南高校の授業実践からは、生徒会活動の一環としてアフリカ・ウガンダへの支援活動が生まれ、後にはAWA－MINAMI洋裁学校と命名された学校がウガンダに設立されました。生徒たちの小さな取り組みが国際貢献につながり、戦禍で苦しむ孤児たちに夢や希望を与えることができました。

このことを通して、学ぶことの大切さを改めて実感した私は、2004年1月、心豊かな地域づくりを目ざしてNPO法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラムを立ち上げました。それまで、市民とともに活動してきた「館山地区公民館戦跡保存調査サークル」と「里見氏稲村城跡を保存する会」を母体としたNPOでは、平和研修など年間約200団体のツアーガイドを実施しています。

一般公開された赤山地下壕（館山市史跡）も年間1万人を超える人びとが訪れており、観光地にふさわしくないと思われがちだった戦跡を、「平和学習のメッカ」として全国的な地域ブランドにするというNPOの第一目標は到達しつつあります。

4年目となったNPO活動も、さまざまな歴史・文化を生かした幅広い取り組みとして新たな段階を迎え、このたび法人名を「安房文化遺産フォーラム」と改称することとしました。この間、多くの皆さんに支えられてまいりましたが、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

●地域まるごと博物館

日本地図を南北逆さに見たとき、房総半島南部は「へ」の字型になった列島の頂点にあたります。太平洋に開かれた安房は、古代から海上交通の要衝として重要な役割を担ってきました。海や花などの自然環境ばかりでなく、風土に根づく歴史・文化遺産など、今あるものを生かした地域づくりを目ざし、「地域まるごと博物館」構想を提唱してきました。

たとえば館山地区をモデルコースとすると、里見氏の歴史や『南総里見八犬伝』を学べる「城山エリア」、戦争と平和について学べる「赤山エリア」、歩いて渡れる無人島として自然環境が学べる「沖ノ島エリア」、太平洋世界に乗り出した近代水産業の歩みを学べる「北下台（ほっけだい）エリア」、産業振興や震災復興の歴史が学べる「まちなかエリア」などを巡ることで、安房の豊かな歴史・文化と世界性を学ぶことができます。まるで、地域がそのまま博物館といえます。

安房の地は、100～200年のサイクルで、大きな戦乱や地震・津波災害などに襲われてきました。そのたびに先人たちは力を合わせて、創意工夫で困難な状況を乗り越え、教育によってその知恵を継承してきました。よその地から漂着した海洋民を受け入れ、助け合ってきた痕跡も見ることができます。

これらのことから浮かび上がってくるのは、先人たちが培った〝平和・交流・共生〟の精神です。この精神を語り継ぎ、実践することが、地域活性化の鍵になるのではないでしょうか。NPO活動は、21世紀における新しい市民参画型地域づくりの試みといえます。

●市民が主役の生涯学習まちづくり

豊かな自然や歴史・文化を活かした安房地域の観光交流が注目されてきた一方で、少子高齢化や過疎化、中心市街地の空洞化をはじめ、医療や福祉から教育・子育てに至るまで、私たちをとりまく社会環境は深刻になりつつあります。

人と人が手をつないで支え合い、活力にあふれ、暮らしやすいコミュニティを築いていくには、どんな可能性があるのでしょうか。「自分たちのまちは自分たちでよくしよう」という思いのある市民同士が出会い、ともに学び合うことから、何かが生まれるかもしれません。

その「はじめの一歩」として、きょう31日午後1時30分より、館山商工会議所2階ホールにおいて、シンポジウム「輝け館山！市民が主役のまちづくり」を開催いたします。参加は無料です。多くの市民の皆様のご来場をお待ちしています。